

## 東京都武蔵村山市の大樹さん

特別住民番797号

2100gで生まれたので、とにかく大きく育ってほしい。という願いを含めて、大樹と名付けました。「ダイキ」と読むか「タイキ」と読むかで悩んだあげく、「ダイ」は英語で死を意味するとの主人の意見で、あえて「タイキ」と名付けました。

しかし、いつもダイキくん、ダイキくんと呼ばれ、そのたび「タイキです、タイキです」と言い直すことが多い毎日です。今回、大樹町という町があることを知って驚いてしまいました。(父母)



## 高知県高知市の大樹さん

特別住民番798号

南国土佐、高知県では、5月に「鯉のぼり」を立てる時に、いっしょに「ふらふ」という名のそれはそれは大きな旗を立てるという風習があります。(畳、十畳位)

男の子が誕生した家では、私の住んでいる高知市でも、この風習がありました。私が、夫の郷里へ初めて行った時も、ちょうどその季節で、電車の窓から、鯉のぼりといっしょに「ふらふ」が見えました。

結婚して、子どもができたなら、私は男の子がいいなあと、その時思ったことを覚えています。

そして、1981年6月15日、長男大樹は誕生し、現在満18歳となりました。

この「大樹(たいき)」という名前は、夫が考えました。

出産を終えて、ベッドに横たわっている私に、

夫「名まえ、考えたぞ」

私「どんな名まえ？」

夫「たいきっていうのはどうだ」

私「うん、どんな字書くの？」

夫「大きな樹」

私「うん、いい名まえやねえ、私も気に入ったわ。それに決めよう。」

私「呼び方は、だいきじゃなくて、たいき」

私達夫婦は、呼び名を「たいき」と決めました。

寄らば大樹のかげ、ということわざがありますが、大きな樹の回りに涼しい木かげができ、人が集まり、人が頼り、ほっとひと息つける空間を与えてくれるように、皆から、頼りにされるような、人の心を和ますような、大きな人間になってほしいと願っています。

彼は、もうすぐ親元を離れて、巣立っていきます。どうか、自分自身を見失わないよう、大地に足をしっかりつけた樹のように、自分の人生を歩んでいってほしいと思っています。(母)



## 兵庫県日高町の大樹さん

特別住民番802号

林の中の大樹のように、たくましく、大地に根をはり、健康で大きくなるように、そんな思いで、「大樹(ひろき)」とつけました。

特に、名字が林なので思いつきました。

大樹が生まれた年に、ある生命保険会社の保険が「大樹」だったので、少しいやでした。



大した病気もなく、20歳になりました。(父)

## 東京都新宿区の大樹さん

特別住民番806号

私の名前は、みなさんと同じ「大樹」です。周囲の人は私のことを「だいじゅ」「たいき」などと呼びますが、本当は「ひろき」と言います。一般に親の名前の一字を子供が貰い命名されますが、私の場合は違います。

父の名前は徳行、二人の兄は、徳明、徳人です。今回の寄稿依頼の通知を小学3年の私の長女に説明したところ、彼女は私の名前の由来を知るために私の実家に電話をかけました。

電話を終えると、彼女はニコニコしながら「お父さんの大樹は、大きな木のように becoming ようにという意味でつけられたのよ」と言ってきました。私も小さい頃、父から同様のことを聞いています。

私の名前「大樹」、妻の名前「久美子」の一字を取り、長女の名前を「美由樹」と命名し、美しい木のように becoming ようにという願いがあります。大樹という木が大地に根を張り、美由樹という美しい木となり、その後、どのような木になるのか、長女に期待しています。



## 東京都新宿区の大樹さん

特別住民番811号

「大樹さん」募集に応募いたします。

我が家の「大樹(たいき)さん」は先月1歳を迎えたばかりのおちびさんですが、我が家一の元気者です。

大樹の名前は日立のコマーシャルの「この一樹、何の樹気になる樹……」をイメージしてつけました。見たことも無い花を咲かせてくれることを期待しております。(父)



## 東京都府中市の大樹さん

特別住民番820号

平成4年11月生まれ、杉田 大樹、6歳です。みなさん、よろしくお願ひします。ピカピカの小学校1年生です。長い楽しかった夏休みも終わり、毎日小学校へ元気に通っています。夏休みは実家の青森に帰って、十和田湖、竜飛岬など行って来ました。是非とも今度はもう少し足をのばして、北海道大樹町へと思っています。

さて、名前のエピソードということですが、なにせ初めての子供で人並に名前に関する本を数冊買い込み、妻と一緒に考えました。やはり字画やら何やらといろいろ考えましたが、最後は感じたままに私の好きな「樹」の字を使って「大樹」にしました。姓字が杉田と「杉」の字があり、イメージ的には杉の木がどっしり大地に根をはっている大きな木。長男ということもあり大きく育ててほしいという願いで命名しました。ちなみに三歳離れた弟は「優樹」です。今度はひょっとして「ユウキ町」とか「ユキ町」とかあり、広大な北海道ですからもしかしてあるかもしれない。また、特別住民の話があったらと、妻と地図を見て話をしていました。大樹という名前がとりもつご縁でこのような機会に恵まれ、町長さん初め役場の皆さん、大樹町の皆さんに感謝しています。

息子の大樹は、田舎が青森の他に北海道もあり、うらやましく思います。(父)



## 滋賀県大津市の大樹さん

特別住民番828号

我が家の長男は「大樹」といいます。名づけの由来には、大きく二つの理由があります。まず一つ目は、長男が次男と共に生まれてきた双子であるということ、二つ目には、我が家の姓が「林」であることです。



双子であること、といっても彼らにとっては今後それぞれのまったく異なった人生を歩んで行くこととなるのですが、親にしてみれば生涯にわたり助け合って歩んでほしい。兄弟仲良く離れずに付き合っていてほしい。そんなことを思ってしまうのです。

そのような願いを込めて名前を考える中で、双子の名前に有り勝ちではありますが、二人に何らかの関連を持たせたものとなりました。ちなみに次男の名前は「幹弥」といいますが、実はその共通したキーワードは「木」、文字どおり大きな木となってほしい「大樹」と、しっかりとした生き方をしてほしい「幹弥」と共に木にひっかけて名づけました。

もうひとつ考えた視点は、「林」という姓との関連です。そこでもキーとなる言葉は、やはり「木」、双子と6歳離れて生まれた三男には、実り多い人生を歩んでほしい願いと「木」のキーワードから「篤実」と名づけました。

今のところの大樹は、名前に込めた親の願いを知ってか知らずか、どっしりとした風格も無く、体は小さく気も弱く細々と育てております。しかしながら、気持ちだけはおおらかに多めの「ボケ」を振りまきながらくらししております。

このまま大きくなっては困りものですが、おおらかなやさしい気持ちは失うことなく、大きくどっしりと育ててほしいと願っております。(父)

## 長野県長野市の大樹さん

特別住民番829号

妻から妊娠を告げられた時は天にも上る嬉しさだった。同時に、責任を痛感し、無事な胎児の成長と妻の健康を祈ったものだった。

とりあえずは名前を考えよう…男の子だろうか、それとも女の子だろうか…両方考えるのは2倍の楽しさがあり、ついニヤニヤしたものである。



まずは女の子の名前からだ。私は自然が大好きであり、のびのびとした雰囲気の命名をしたかった。…それこそある日ある時直感的に、野に咲く大輪の花—ヒマワリが頭の中全部を支配した。よし、これだ。牧野大輪か牧野ヒマワリ—得意満面で妻に話したところ、返事がなかった。

次は男の子の名前だ。どういう訳かこれが少しの進展もないまま、時間だけが経過していった。あれもこれも…ダメだコリヤ！

定期検診から戻った妻がニッコリして、「超音波でね、ついていきますって」と告げた時は、頭の中のモードをお下げ髪からクリクリ坊主に変換しつつもプレッシャーが増大していった。…そして誕生…。

息子は妻の実家のある高知県で生まれた。この時点ではまだ名無しのゴンベなのだが、私は名前の中に“樹”の字を入れたい—と思っていた。その理由は、私の親友の長男の名前に私の名前の一字を入れて、“基樹”(もとき)と付けていた。もったいなくも有難い命名であった。“基”が私の名(基住)の一字であるので、私の長男の命名には今度は逆に一字をいただいたのである。

名前に込める願いとしては、(1)とにかく健康であること、(2)性格が温厚であること、(3)欲をいえば、学力優秀であってほしい～以上3点である。

—牛に引かれて善光寺参り—その善光寺の隣りに公園がある。私はその公園内にある樅の木が好きで、その根元で考え事をよくしてきた。今回もそうで子供の名前を考えながら大きな木を見上げた。そこには立派な枝を張り巡らせた私の答えがあった。命名・大樹(たいじゅ)—牧野大樹だ…。

以来15年。大木、ではない。わが愛息・大樹はすくすく成長している。願い事の(1)と(2)については全く申し分ないが、(3)は大いに申し分がある。(父)

## 北海道札幌市の大樹さん

特別住民番840号

私たちが子供の名前に「大樹」とつけたのは、大きく成長し、枝や葉が茂り、時には人々のくつろげる木陰を作るような、心豊かな人間になってほしいというを込めてつけました。

今はまだ3歳で、これからどのような人間に育っていくかわかりませんが、これからの彼の成長を温かく見守ってやりたいと思っています。



## 神奈川県茅ヶ崎市の大樹さん

特別住民番842号

平成8年7月22日、我が家待望の第二子は、逆子のため帝王切開で誕生しました。少し呼吸が苦しそうとのことで、新生児多呼吸症候群と診断され小児科病棟で保育器に入れられたものの、日々回復していると聞いて安心していました。ところが、誕生から5日目、いつになく改まった様子の主治医から告げられた病名は、「心室中隔欠損症」「心不全」。



何の医学的知識もないままに突然聞く病状説明は、あまりに重く、どう受け止めてよいかもわからず、ただ涙が溢れるばかりでした。同じ様にショックを受けていたであろう夫に励まされ、しっかりしなければと自分に言い聞かせました。当分の間、心臓の負担を軽くするため哺乳量を減らすので、体重は減っていくとのこと。保育器の中の我が子は、心電図やら点滴やら沢山のコードをつけられ、日に日に痩せていきました。出生時3100gあった体重が最大時2600gまで。ただでさえ新生児は皮下脂肪が少ないのに、水分制限により骨と皮がやけに強調され、頬はこけ、小枝のようになった赤ん坊。生まれたばかりの子にこんなに大きく荷物を背負わせてしまったと、胸が潰れる思いでした。

しかし、彼は懸命に生きていました。こちらが逆に勇気付けられる程強い生命力を感じさせながら。そして、8日目に命名。

「今は小枝のようだけれど、この先、大地にしっかり根差し、沢山の枝葉をつけた大樹のように大きく、逞しく育って欲しい。との思いで、「大樹(ひろき)」と名付けました。

幸い、大樹は1カ月で退院。それまでの分を挽回するようにめきめき元気に育ち、3歳になった今では悪戯盛り、あの頃のことを嘘のようです。半年に一度、心臓の経過観察のため通院をしており、手術の可能性は残っているものの、現在のところ日常生活に全く支障ありません。何よりも、元気な彼を見ていると、これからも名前のおりに大きく、逞しく成長していくに違いないと確信しています。

我が子と同名の町があると知った時は、とても感動しました。

貴町と結ばせていただいたご縁を、将来にわたって大切にしていきたいと思っています。  
(母)